

TOREK 自然農法 ホットニュース

第 123 号 2008.7.25

健康な地球に生きる健全な人間の姿を求める「岡田茂吉師」が提唱した「自然農法の原理」に基づき、「無施肥無農薬栽培」を通し、生産、流通、消費者がお互いの現場を理解し合える、安全で豊かな「食」の普及に取り組んでいます。

鎌ヶ谷頒布会、おかげさまで二周年！



7月16日に行われた鎌ヶ谷頒布会、今回、めでたくも2周年の節目を迎え、スタッフの方々の「自然農法のさらなる普及に取り組んでいきたい!」「食育に寄与していきたい!」という熱い思いを感じることができました。

地域密着の頒布会とあって、近所の方々が来られ、「安心できる食材を求めています、なかなか頒布会に日にちがあわず、今日来ることができ本当に良かったです!」「長い間、有機栽培をグループで実施していますが、無施肥にも関心を持ちました」などの声がありました。

食事制限のあるアレルギーの2歳のお子さんが、試食の玉ネギ、豆をムシャムシャと食べ、お母さま大変喜ばれたという感動的なシーンもありました。

自然の食材で作られたカレーライス、じゃがいももち、イチゴシェイクも絶品でしたし、会場2階では、各グループの自然農法の取り組み、自然農法の野菜を食して救われた、という奇跡的な体験のお話を聞くことができ、とても勉強になりました。

ある方の報告では、子宮筋腫による貧血が、増血剤を使わず、自然米と自然の野菜を食べることで、だいぶ回復したが、1週間自然米を切らしたら、体調が悪くなり、すぐに自然米を取り寄せたとのこと。またある男性は、忙しい仕事や用事の合間をぬって、作物を栽培しているとのこと、自然農法普及の使命感に燃えているなど、頭の下がる思いでした。

良き野菜、スタッフ、会場、「安全な食はここにあり!」と強く訴えていきたいと思った頒布会でした。



自然農法始めました!

江戸川区 中嶋佐知



柴又街道沿いの、とある小さなスペースに、中嶋佐知さんの畑があります。

この場所は5、6年前から空き地になっていて、粗大ごみや家具、自転車などが放置され、虫も湧き、雑草も生え放題、時に除草剤がまかれたりしていた荒地でした。この空き地の前をよく通っていた中嶋さんは、去年の春、いてもたってもいられずに、地主さんへかけあい、粗大ごみを片付けることを条件に、この土地をお借りしたのが、無施肥無農薬栽培の取り組みの始まりでした。

今年は、まだまだ土に昨年までの除草剤使用などで残存した汚れがあると考え、その汚れを中和させるため、客土をしたり、作物とともにグラジオラス、ユリ、アジサイなどの花を共存させたりしています。作物はトマト、ナス、ブロッコリー、ネギ、シソ、キュウリ、小松菜などを栽培し、来年からは徐々に花よりも野菜を増やしていきたいとのことでした。

近所の方々も、土地がきれいになったことを喜び、「心が和む」「気持ちがいい」と言ってくれ、通りかかって聞いてくる方には、肥料も農薬も使っていない畑であることを説明し、収穫した野菜を配ることもあるそうです。環境にも良いし、小さな取り組みですが、少しでも自然農法が広がっていくことを願っています」と語る中嶋さんの姿は、やさしさと熱意にあふれていました。

体にやさしい自然農法の作物

群馬県碓氷郡 小林 均



去る6月25日の昼、酢豚定食を食べたときのことです。大きな豚肉を一口に飲み込んだとき、食道に詰まってしまいました。焦ってお茶で流し込もうとしたら、お茶も逆流し、口から勢いよく吐いてしまいました。かろうじて気道は確保され、呼吸はできました。しかし、食道は完全に詰まり、つばさえも飲み込むことができず、つばがのどに溜まると苦しくなり吐きました。

その夜はつばが飲み込めないため、一晩中トイレに駆け込んで吐いていました。吐くものはつばだけです。もちろん、食事も25日の夕食、26日の朝、昼、夕食と食べられませんでした。その間、一滴の水も飲み込むことができません。周りの人が脱水症状になってしまうのではと心配しました。確かに口の中が乾いた状態になりましたので、水を含んでみましたが、変化はありません。

そこで、先日お分けいただいた自然の緑茶を口に含ませたところ、気持ちよく染み渡るように、一瞬にして口の中の乾きは収まりました。しかし、まだ飲み込むことはできませんでした。が、26日の夜9時28分、無事、のどが開通しました。

1日半も詰まった状態だったため、食道が炎症を起こしているような感じがしました。その後、自然のお茶と自然米のお粥と普通のみそ汁を頂きましたが、自然のお茶とお粥は本当にのどから胃、そして体へと染み渡る感覚を味わいました。しかし、みそ汁は自然でないためか、のどにしみました。自然農法の作物は本当に体にやさしい食物だと実感しました。

一点作物ピックアップ ~ジャガイモ~

ジャガイモ 原産は南米アンデス山脈の高地。16世紀にスペイン人によりヨーロッパにもたらされ、日本には17世紀に入ってきました。

ジャガイモは根ではなく、茎の地下部から枝分かれしたストロンと呼ばれる副枝が伸び、その先端が肥大して、デンプンが蓄積しためずらしい作物です。ちなみに、サツマイモは根が変化したものです。芽や皮、特に光に当たって緑色になった皮には毒性があるので注意しましょう。一般では連作障害の強い作物と言われていますが、自然農法では連作でし続けている報告があります。

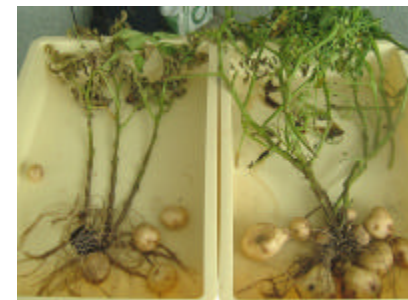
さて、今回は無施肥と有肥の2種類のジャガイモを比較しました。この2種類は同じ畑のもので、同じ種芋で作られたものです。右側は配合肥料と化成肥料をひとつかみずつ一株にまいたものです。茎太く、繁茂し、茎は自分で立てないほどに伸び、畑に横たわっていました。それに比べ、自然のジャガイモの茎は樹木のようにスーッと自立し、美しい感じがしました。



芋の数や大きさは有肥のほうが上回っていましたが、色、つや、形、きめの細かさなどは、無施肥のほうが良いとの声が多く聞かれました。

さて、あなたはどちらのジャガイモを食べたいと思いますか?

左 配合肥料 右 化成肥料



お知らせ



自然農法農産展 8月3日(日)販売 / 8月17日(日)展示
今年の農産展は販売と展示が別々の日程になります!
8/3の販売物予定表は農産展会場案内図の裏にあります。
自然農法頒布会 8月19日(火) 鎌ヶ谷会場 11:00~15:00
自然農法勉強会 8月26日(火) 昼の部 10:30~ 夜の部 19:00~ (別院講堂)

お問い合わせ先: 編集部 針貝 FAX: 03-3369-3324 e-mail: naturefarming@torek.jp
TOREK活動のホームページもご覧ください。 <http://www.torek.jp>